２０２０年度

事　業　報　告　書

自　２０２０年　４月　１日

至　２０２１年　３月３１日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

２０２０年度事業報告書

I. 総 括

2016年8月、日本財団TOKYO展2020(任意団体)として設立した当団体は、2016年10月3日、一般財団法人に移行した。2017年4月、これまで以上に全ての人が共に生活できる社会の実現をより一層加速させるため、新たに舞台芸術公演の開催を事業内容に加えることにし、団体名称を「一般財団法人日本財団DIVERSITY IN THE ARTS」に変更した。

設立から五年目にあたる2020年度は、以下の事業を実施した。

(1) 企画展事業では、2020年7月～9月の2か月間、東京オリンピック、パラリンピックの開催時期にあわせ、船の科学館（東京・お台場）を会場に企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS展（仮称)」の開催を予定していた。しかし、新型コロナウイルスの世界的流行により、東京オリンピック、パラリンピックが2021年に延期になったことを受けて、本企画も開催時期を延期した上で、その内容についても見直すこととし、2020年4月以降、関係各所と協議を行った。

(2) 「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS」の事業内容を広く周知するため情報発信に努めた。

(3) 公募事業では、2019年度に実施した「第2回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」作品募集において、受賞作家への授賞式及び入選作品の展覧会開催を予定していたが、いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。2020年度事業として「第3回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」を実施し、障害のある人にアート活動の機会を提供するとともに、広く社会に発信するために作品募集から展覧会の実施準備を行った。

(4) 多様性をテーマにした舞台芸術のプログラムでは、2019年度に引き続き、日本財団との連携・共催のもと、「True Colors Festival ー超ダイバーシティ芸術祭ー」の取り組みを行った。当初計画していた演目は新型コロナウイルスの影響により中止したが、オンラインでのプログラムを再検討し、2020年度には計4本のオンラインイベントを実施した。

II. 実施事業の概要

A. 障害者等によるアート作品の展覧会の開催

a. 企画展「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS展（仮称)」

開催時期を延期し、事業内容を一から見直すことを受けて、2020年4月以降、日本財団及び関連会社と内容や方向性の策定にあたり協議を重ねてきた。障害者と芸術文化への認知拡大及び意識改革の推進を図ることを目的に、障害福祉やアートの分野に接点の少ない、一般の若年層を主なターゲットとし、新型コロナウイルスの影響を考慮した、非接触型のイベント形式を検討。オンライン上でのアプローチをベースとし、メディアやSNS等を有効的に活用することで、多くの人々が参加できる多面的な企画内容を協議した。しかし、2021年3月時点で事業内容や評価指標等の折り合いがつかないことから、企画展自体を白紙に戻すこととなった。

b. 企画展会場の管理及び復帰

2020年5月下旬、大成建設株式会社に発注した船の科学館（東京･お台場）の改修工事が終了した。同館を会場として使用するか否かを引き続き検討していることから、今後も会場の維持・管理を平行して行い、事業終了時には、平和島の美術品専用倉庫に保管している船の科学館の所有展示物等の現状復帰を行う。

B. 情報発信

ホームページや各種媒体を通じて、各種事業の情報発信に務めた。

a. Webメディア「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」

「日本財団DIVERSITY IN THE ARTS」のメインサイトとして、取材・企画制作記事掲載を中心に、当団体実施イベントや情報を伝えるページを随時更新公開した。

今年度は取材記事34本を制作し、前年度制作分を合わせて38本を公開した。また関係イベントなどのニュース記事44本を作成・公開した。

本Webサイトへの年間総訪問者数は180,929人で、ページビュー数は217,308PVであった。

サイト内のプロジェクトページの各事業コンテンツを年毎に並び替え見やすくなるように整備し、当団体のヴィジュアルアーツとパフォーミングアーツに関わる全ての事業を網羅して紹介できるようにした。

また、サイトのウェブアクセシビリティを定めた日本工業規格「JIS X 8341-3-2016」に準じたアクセシビリティ診断を行い、診断結果に基づいてデザイン・及びシステムの改善を施した。

b. ソーシャルメディアとの連携

Facebook、InstagramとWebメディア「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」を連動させ、情報の拡散に努めた。2021年3月末時点で、Facebookの「いいね」が2,011件、フォロワー数2,454人、Instagramのフォロワー数も2,408人に達し、堅実に数を伸ばし

ている。また、2020年6月にWebメディアTODAYの記事更新を伝えるTwitterを開設した。

c. 「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」の発行

Webメディアで公開する記事を再構成し、「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」(タブロイド版、フリーペーパー)として、08号と09号を発行した。発行部数は08号16,500部、09号は15,000部で、文化施設、福祉施設、学校、書店、カフェ等で配架・配布した。全国での配架拠点、配架部数ともに増加しており、外部イベントでの配布希望の引き合いなどもあり、広く本事業の周知を感じられた。またGoogle Formを利用した申込システムをつくり、個人の購読希望者に対応している。

d. メールマガジンの配信

年間ほぼ月1回のペースで計10回、延べ23,606ユーザー宛てにメールマガジンを配信した。

C. 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」の実施

a. 「第2回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」授賞式及び展覧会

2019年度に実施した作品募集において、受賞作家への授賞式及び入選作品の展覧会開催を予定していたが、いずれも新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

(1) 授賞式の開催(中止)

開 催 日　2020年4月11日㈯
会　　場　Bunkamura Gallery

(2) 展覧会の開催(中止)

名　　称　第2回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展
主　　催　日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
共　　催　社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団(横浜会場)
協　　力　国際障害者交流センター ビッグ・アイ
　　Bunkamura(東京会場)
展覧会アートディレクター　中津川浩章(美術家/アートディレクター)
会　　場　＜東京会場＞
　　会期　2020年4月12日㈰～4月22日㈬
　　時間　10:00～19:30
　　会場　Bunkamura Gallery/Wall Gallery
　　＜横浜会場＞
　　会期　2020年4月25日㈯～5月1日㈮
　　時間　9:30～18:00　(26日㈰、29日㈬㈷は17:00まで)

会場　障害者スポーツ文化センター　横浜ラポール

内　　容　＜東京会場＞

・受賞作品（11 点）、入賞作品（57 点）、国外佳作作品（4 点）、別枠作品（11 点）の展示

・「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」の開催

日時　2020 年 4 月 19 日(日) A. 10:30～12:30　　B. 15:00～17:00

2020 年 4 月 20 日(月) C. 13:00～15:00　　D. 17:30～19:30

講師　視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ

定員　各回 7 名程度

参加無料　要申込（申込多数の場合は抽選）

＜横浜会場＞

・受賞作品（11 点）、入賞作品（57 点）の展示

(3) その他（制作完了）

・図録制作（600 部）

・各種チラシ制作

b.　「第 3 回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」

障害のある人にアート活動の機会を提供し、有能なアーティストの発掘、支援を行い、社会に発信することを目的に、障害のある方を対象にアート作品の公募、審査及び展覧会を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため受賞作家への授賞式は中止した。

(1) アート作品の公募

募集期間　2020 年 6 月 15 日(月)～7 月 5 日(日)

募集内容　国内外を問わず、障害のある方が制作したアート作品で過去に受賞歴のない作品。

応募点数　1 作者につき 3 点以内

出品規格　絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。
素材やテーマは自由。
平面作品　縦 200 cm×横 120 cm以内
立体作品　高さ 200 cm×幅 150 cm×奥行 150 cm　重量 50 kg以内

(2) 公募作品の審査・選考

審 査 員

秋元雄史　　東京藝術大学大学美術館館長・教授、練馬区立美術館館長

上田バロン　　FR/LAME MONGER 代表、イラストレーター

エドワード M. ゴメズ　　RAW VISION 主任編集者

藏座江美　　一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事

中津川浩章　　美術家、アートディレクター

永野一晃　　写真家

望月虚舟　　書家

審査方法

＜一次審査＞　国外応募は7月中旬、国内応募は8月上旬に審査員による書類（写真）審査を実施。

＜二次審査＞　審査員立会いのもと、一次審査通過作品の現物審査を実施。審査員賞/海外作品賞/入賞/佳作併せて118作品を選出
二次審査（現物審査）実施日　2020年9月21日㈪㈷

応募作品数　2,089作品（国内応募1,900作品、国外応募189作品）

⑶ 授賞式及び展覧会の開催

2020年度（第3回）及び中止した2019年度（第2回）入選作品を展示した展覧会を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定していた関連イベント開催は見送り、授賞式は中止した。

・ 授賞式（中止）
開 催 日　2021年4月3日㈯
会　　場　Bunkamura Gallery

・ 展覧会（開催）
名　　称　「第3回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」
主　　催　日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
共　　催　社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団（横浜会場）
協　　力　国際障害者交流センター　ビッグ・アイ
Bunkamura（東京会場）
展覧会アートディレクター　中津川浩章（美術家／アートディレクター）
会　　場　＜東京会場＞
会期　2021年4月3日㈯～18日㈰
時間　10：00～19：00
会場　Bunkamura Gallery/Wall Gallery
＜横浜会場＞
会期　2020年4月21日㈬～26日㈪
時間　9：30～18:00（25日㈰は17：00まで）
会場　障害者スポーツ文化センター　横浜ラポール
内　　容　＜東京会場＞
・第3回及び第2回入選作品の中から154点の展示
受賞作品（第3回：13点、第2回：11点）
入賞作品（第3回：44点、第2回：57点）
国外佳作作品（第3回：8点、第2回：4点）
別枠作品（第3回：6点、第2回：11点）
＜横浜会場＞
・第3回入選作品の中から57点の展示
受賞作品（13点）
入賞作品（44点）

(4) その他（制作完了）

・ 図録制作（648 部）

・ 各種チラシ制作

D. 多様性をテーマにした舞台芸術シリーズの開催

多様性をテーマにした舞台芸術に関連するオンラインでのプログラムを計 4 本実施した。日本財団との連携・共催のもと、「True Colors Festival ー超ダイバーシティ芸術祭ー」と銘打ち一連の取り組みを行った。

a. ミュージックビデオ「STAND BY ME」

公 開 日　2020 年 6 月 3 日㈭　（現在も配信中）

場　　所　オンラインで配信（True Colors Festival YouTube 公式チャンネルほか）

出　　演　ウィールスミス、サインマーク他 15 か国・地域の障害のあるアーティストなど 46 名

視聴者数　Youtube：19 万回、Tiktok：21 万回、Facebook：44 万回

合計　84 万回

内　　容

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、東京都内で予定していたすべてのイベントを中止した後、オンラインでも多様性やインクルージョンのメッセージを発信することが重要と考え、オンラインで発表できるミュージックビデオの制作・発表を行った。コロナ禍においてこそ、障害者をはじめ様々な背景を持つ人が置き去りにならないよう、寄り添いあう世界を目指すステートメントとして「STAND BY ME」の楽曲をセレクトし、障害のあるミュージシャンやダンサーに参加いただいた。公開時には、オリジナル版のほか、音声ガイド（英語）版と手話が大きく見えるバージョンも制作し、いずれも多くの方にご覧いただけるきっかけとなった。

b. オンライン・トークイベント「THIS IS HIP-HOP!」

開 催 日　2020 年 9 月 26 日㈯　（現在はアーカイブ動画を配信中）

場　　所　オンライン

出　　演　ジョンジーD（英国）、アンバー・ギャロウェイ・ガレコ（米国）、ルカ・パトエリ（カナダ）、サイコジ（インドネシア）、ウィールスミス（シンガポール）、スパーシュ・シャー（米国）、TAMURA KING（日本）

当日視聴者数　470 回

アーカイブ視聴者数　1,088 回

内　　容

6月に発表したミュージックビデオ「Stand By Me」で印象的だったラップパートやストリートダンスを披露した障害のあるアーティストのほか、ヒップホップの世界で活躍する国際的なアーティストらによるオンライン・トークイベント。異なる文化・社会的コンテキストに由来するアーティストたちが、どのようにヒップホップと向き合い独自のものにしてきたかを知ることで、インクルーシブな社会の在り方のヒントを探ることができた。後半には各国のダンサー、ラッパーによる本イベントのために作られたオリジナル・ビデオ作品を上映。日英字幕、国際手話・日本手話を付与した形でのオンライン・イベントとなった。

c.　True Colors Film Festival

開 催 日　2020年12月3日㈭　～　12月31日㈮

場　　所　オンライン

総視聴者数　4,929回

内　　容

2020年12月3日㈭より、約1か月間のオンラインの映画祭「True Colors Film Festival（トゥルー・カラーズ・フィルム・フェスティバル）」を開催。テーマは「One World One Family（世界は一つの家族）」で、障害、女性のエンパワメント、アイデンティティ、貧困と逆境、人種差別など多様性とインクルージョンをテーマに扱った長編・短編作品を厳選し計28本を紹介した。

長編作品は12月12日㈰までシンガポールのオンライン映画配信プラットフォームより配信を行い、短編作品は12月31日㈮までフェスティバルの公式Vimeoチャンネルにて配信を行った。いずれも無料で貴重な映画が見られる機会で、多くの方にご覧いただくことができた。また、初日は国際障害者デーに合わせて開催し、特別上映として脳性まひの主人公による日本映画「37セカンズ」の上映会と関連トークイベントを行った。

＜関連イベント＞

開 催 日　2020年12月3日㈭

場　　所　オンライン

一部、メディア・関係者のみを招いた上映会、トークを都内のスペースFS汐留で実施。

内　　容　①True Colors Film Festival オープニングトーク

②「37セカンズ」特別上映会

③「37セカンズ」監督・出演者によるトークイベント

当日視聴者数　121回

アーカイブ視聴者数（トークパートのみ）　1,221回

d.　True Colors FASHION～ドキュメンタリー映像「対話する衣服」

公 開 日　2021 年 3 月 5 日㈮　（現在も配信中）
場　　所　オンライン（フェスティバル公式 YouTube ほか）
出　　演　ここのがっこうデザイナー、障害のあるモデル他
監　　督　河合宏樹
視聴者数　3,800 回
内　　容

日本で気鋭の若手ファッションデザイナーを世界に輩出し続ける私塾「ここのがっこう」のデザイナーと、障害者を含む 6 人の異なるモデルが互いに向き合い服を制作する様子を収めたドキュメンタリー映像を制作・発表した。監督に河合宏樹を迎え、コロナ禍における作品完成までの数か月、悪戦苦闘しながらも、それぞれの個性に向き合った姿を記録した。また、完成した 6 組の作品を紹介するクライマックスシーンでは、写真・構成を LILY SHU が、音楽を蓮沼執太が担当し、音声ガイドがないバージョンとあるバージョンを比較することで、インクルーシブなアプローチの表現を試みた。

e. **その他**

当初計画していた演目は中止となったが、オンラインで 4 つのプログラムを実施することができた。オンラインに移行したことで、海外からのフォロワーが増やすことができ、SNS などを通じて、海外に向けた英語による広報 PR を強化した。

一方、障害のあるアーティスト育成に取り組むことを計画していたが、新型コロナウイルスの影響により、事業全体を見直すなかで、2020 年度は十分な成果が得られないと判断し、次年度以降に持ち越すこととした。

III.　総務報告

1.　評議員・役員に関する事項

(1) 評議員

吉倉和宏　2020 年 7 月 27 日再任 日本財団常務理事
菅井明則　2020 年 7 月 27 日再任 笹川平和財団常務理事
中西由郎　2020 年 7 月 27 日再任 元日本ゲートボール連合専務理事

(2) 理事

横尾紀彦(理事長)　2020 年 7 月 27 日再任 にっぽん文楽プロジェクト理事長
小澤　直　2020 年 7 月 27 日再任 日本財団パラリンピックサポートセンター常務理事
菅原悟志　2020 年 7 月 27 日再任 ブルーシー・アンド・グリーンラド財団理事長

(3) 監事

山田恵一郎　2020 年 7 月 27 日就任 笹川平和財団部長

以上 2021 年 3 月 31 日現在

2.　コロナ禍における事務局体制

2020 年度は、新型コロナウイルスの感染拡大と、東京都に緊急事態宣言が発出されたため、事務局職員の安全確保と事業実施が両立できるよう、在宅勤務を主とした勤務体制に変更した。在宅勤務期間中は、職員間の情報が減少することから、勤務日はオンラインによる「朝礼」を行い、情報交換と健康の確認を実施した。

また、職員の出張やイベントの実施、障害者施設を訪問する際には、その都度 PCR 検査を受けさせ感染対策を徹底した。

3.　サテライト事務所の閉鎖

True Colors Festival の運営に際し、2019 年 6 月 1 日より株式会社ロフトワークより借りていたサテライト事務所（東京都渋谷区道玄坂 1-22-7）は、同事業内容の変更に伴い、賃貸借契約を解約し、2020 年 4 月 24 日に退去・閉鎖した。

4.　職員について

2020 年 4 月、これまで雇用している職員 9 名と契約の更新を行い、同様に人材派遣会社との間でも契約を更新し派遣社員 1 名を受け入れ、事業展開に必要な人員を確保した。